

2000年 3月期の業績

電子材料製品

電子デバイス製品

製 品

積層チップコンデンサ、インダクタ・トランス用フェライト・コア、テレビ及びコンピュータ・モニター用偏向ヨーク・コア、フェライトマグネット、希土類マグネットなど。

高周波部品、EMC(ノイズ対策)部品、インダクタ、トランス、サーミスタ、圧電部品、アクチュエータ、コイル、DC-DCコンバータ、DC-ACコンバータ、スイッチング電源など。

業 績

電子材料製品の売上高はPCや携帯電話用にコンデンサ需要が堅調だったため12.6%増加の1,748億97百万円となりました。フェライト・コアの売上高は円高と価格低下によって減少しました。同じ要因で、フェライトマグネットの販売量は増大したものの売上高は伸び悩みました。金属マグネットの売上高は価格競争の影響で前年並みとなりました。

電子デバイス製品の売上高は7.4%増加して1,290億25百万円となりました。インダクティブデバイスについては、EMC部品とコイルが好調でしたが、偏向ヨーク・トランスが減少した結果、全体で前年並みでした。高周波部品はヨーロッパの活発な受注に支えられて売上が急増しました。DC-DCコンバータも新規市場の開拓に成功して売上増を達成しました。センサーとアクチュエータも市場が好調に推移し、売上を伸ばしました。

ハイライト

積層チップコンデンサの月間生産数を約40%増やすために大規模な投資を行いました。
ノートPC等に使う小型高出力電源のアダプタ向けフェライトを開発しました。
超透磁性フェライト(H5C5)は幅広い用途でトランスを劇的に小型化します。
ギガヘルツ帯でもノイズを低減可能とするチップビーズを開発しました。

ブルートゥース無線ネットワーク規格向けの2.4ギガヘルツの積層アンテナを開発しました。
バッテリーを電源とする多様な電子部品向けに非鉛低抵抗チップインダクタを開発しました。
携帯電話向けに業界最小の積層チップバラン(HHM-13シリーズ)を開発しました。

記録デバイス製品

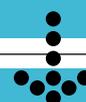
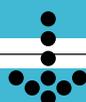
IC関連その他製品

記録メディア製品部門

HHD用のMR及びGMR(大型磁気抵抗)ヘッド、FDD用ヘッド、サーマルヘッドなど。

PCカード、モデム、LANカード、モデム/LANの組み合わせ用カード、モデムとLAN/WAN向けIC、FA装置、電波暗室

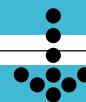
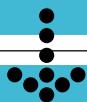
追記型CD-Rディスク、ミニディスク(MD)、DVD、オーディオテープ、ビデオテープ、デジタル方式ビデオテープ、フロッピーディスクとコンピュータ用データストレージテープ



売上高は4.2%減少して2,007億48百万円となりました。ヘッドの面記録密度が高まったことで、HDD1台当たりに使用するヘッドが減少し、しかもHDDメーカーによるヘッド価格値引きへの厳しい要求が、売上高を圧迫することになりました。当社では、2000年3月時点でほとんどのMRヘッドがGMRヘッドに変わりました。

売上高は4.3%減少して273億5百万円となりました。当社の半導体事業は、主にTDK Semiconductor社の通信用IC技術の貢献で高い売上を達成しました。PCカードの売上高は、昨年に引き続き減少しました。

売上高は12.5%減少して1,424億89百万円となりました。光ディスクでは、CD-Rディスクへの需要が劇的に増加したものの、価格の低下が売上高の伸びをおさえました。MDは販売数量が増えたものの、急激な価格の低下によって相殺されました。オーディオテープも世界的な需要減退で売上を落したものの、当社は市場でトップとしての地位をさらに充実させました。



次世代トンネリングGMR(TMR)ヘッドのサンプル出荷を2000年後半に行う計画を公表しました。2000年3月、GMRヘッドメーカーのHeadway Technologies社を買収しました。

有機ELディスプレイの量産体制の準備を整えました。同時に8個のNAND型フラッシュメモリをコントロールできる制御ICを開発しました。ヨーロッパのSCART接続規格に適合するスイッチャーを含むセットトップボックス用の革新的なシングルチップIC開発をしました。

2000年4月現在でCD-Rディスクの月産を2,100万個へと高めました。VHSデジタル方式用D-VHSカセットの販売を開始しました。日本でDVDビデオレコーダー用DVD-RW(書きかえ可能)ディスクの販売を開始しました。